

【演題】

KYT の取り組みについて

【代表研究者】

上口智幸

【分担研究者】

上口智幸、中村裕樹、八反丸健二

【はじめに】

2012 年に医療安全対策委員会の予防対策活動として、全職員を対象に危険予知トレーニング (KYT) を導入した。KYT 終了時にアンケート調査をし、職員の活動意識をまとめたので報告する。

【対象及び方法】

KYT を実施する前に準備・運営を行うチームを編成した。6 月と 11 月に全職員 (6 月: 191 名、11 月: 194 名) を対象にトレーニングを行い、1. KYT の目的、グループワーク、実施時期などを設問の大項目にした。2 回の結果を踏まえて活動の考察と今後の課題を検討する。

【結果及び考察】

6 月の KYT では、「危険箇所への集中力を高める事が出来た」と答えた方が 78.6%で、次に「危険を危険として気づく感受性を鋭くすることが出来た」と答えた方が 67.8%で集中力や感受性について実感することが出来たと考える。「実践を高めることが出来た」と答えた方が 56.1%と他に比べ低い値になった。これは、日頃患者と関わる事が少ない職種の参加もあり、現場を想定しにくいことが考えられた。さらに、11 月には各項目で低減しており、トレーニングを頻回に行う必要性を感じた。今後は、安全な職場風土を築くために職種で分化し、より身近に起こりそうな場面設定が必要となる。これまで、当院では他職種でのグループワークを行うことが少なく、今回の活動で立場が違う職員の視点をみることが参考になったという意見が聞かれた。更に、ファシリテーターの教育や KYT の日常化について検討を重ね継続していきたい。